

「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人もわかりやすい日本語のことです。災害時の緊急情報や行政情報の発信はもちろん、普段のコミュニケーションにおいても有効です。

「やさしい日本語」は、その有効性から日本全国での活用が広がっています。

普段使っている言葉を、「やさしい日本語」に変換する際にはいくつかのポイント(P4～)があります。このポイントを抑えれば、誰でも迅速にわかりやすい情報発信をすることが可能です。

「やさしい日本語」ができたきっかけ

1995年1月の阪神・淡路大震災では、日本人だけでなく日本にいた多くの外国人も被害を受けました。その中には、日本語も英語も十分に理解できず必要な情報を受け取ることができない人もいました。

そこで外国人が災害発生時に適切な行動をとれるよう、災害情報を「迅速に」「正確に」「簡潔に」伝えるために、弘前大学 社会言語学研究室により提案されたのが「やさしい日本語」です。

